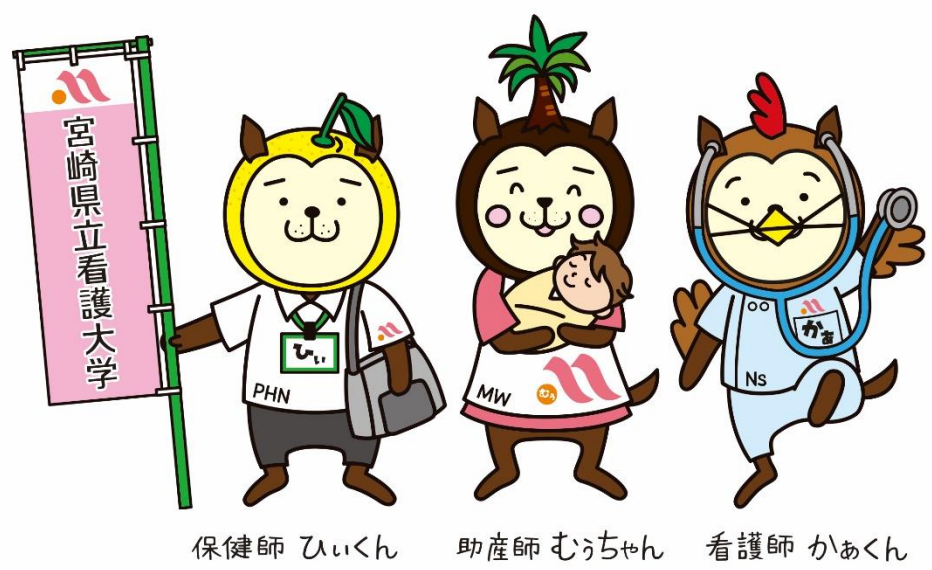
宮崎県立看護大学

研究シーズ集

2024年度版



皆様と本学教員の素晴らしい出会いを期待して

学長　　長鶴美佐子

一人の人間が行う研究や地域貢献には限界があり、その成果を出すまでには時間や手間も要します。しかし、類似する内容や関連する内容に取り組む研究者や地域貢献を行う人々との出会いで、その研究や地域貢献活動は深まりと広がりができ、大きく発展していきます。

このような考えに立ち、本研究シーズ集は、本学の教員の研究・地域貢献活動を紹介し、類似する活動を行う人々と本学教員を結びつけるために作成したものです。

まず、この研究シーズ集をめくり、本学の教員がどのような研究・地域貢献活動を行っているかご覧いただければと思います。そして、興味を持つ研究・地域貢献活動がありましたら、ぜひその教員にアクセスしてください。結果として、本学教員と連携・協働する研究・地域貢献活動へと発展することができれば、これほど喜ばしいことはありません。

皆様と本学の教員とのすばらしい出会いがあることを願っております。

宮崎県立看護大学 研究シーズ集とは

「宮崎県立看護大学 研究シーズ集」は、各研究者が研究テーマ、研究の概要およびその成果について、出前講義や連携した調査研究が可能なテーマなどをコンパクトにまとめ、企業等の産業界や医療機関、学外の研究者の皆様にご紹介するものです。

シーズは分野ごとに分かれており、お探ししたい分野についてPDFの一覧でご覧いただけます。また、それぞれのシーズの教員名から、プロフィールページへリンクできます。

出前講義の依頼や委託研究および共同研究のテーマ探しなどにご活用ください。

宮崎県立看護大学 研究シーズ集　2024年度版　　目次

分野	領域	職位	氏名	研究テーマ	頁
普遍分野	自然界と看護	准教授	小河一敏	看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築	1
	人間社会と看護	教授	串間敦郎	高齢者の介護予防運動の開発と普及	2
		教授	岩江荘介	研究倫理審査委員会の審査の質向上について（事務局スタッフへの教育など）	3
	個の尊重と看護	教授	川北直子	多読学習の効果、看護学生と異文化理解	4
		講師	ヘンスリージョール	国際コミュニケーションツールを備えるため	5
	文化と看護	教授	大館真晴	日本上代文学作品の文献学的研究	6
		准教授	長坂 猛	睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力	7
専門分野	看護人間学Ⅰ	特任教授	菅野幸子	看護大学生の生化学(代謝学)教育に効果的な教育内容と教授方略	8
		教授	川越靖之	宮崎の産婦人科医療及び看護の発展を目指す	9
		教授	田中美智子	健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究	10
		助教	野末明希	1．睡眠と日常生活の質改善プログラムの構築 2．遺伝性のがんをもつ人とその家族への看護支援	11
	看護人間学Ⅱ	講師	加藤沙弥佳	看護学生の職業コミットメントに関する研究	12
	看護人間学Ⅲ	教授	中尾裕之	特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する分析とその可視化 ～自治体への支援のために～	13
	基礎看護学	准教授	邊木園幸	高齢者施設における感染対策に関する研究	14
		准教授	毛利聖子	看護理論の修得過程/人権・倫理教育の構築	15
		講師	山岡深雪	慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援	16
		助教	坂井謙次	実習指導の自己評価に関する研究	17
		助教	原村幸代	高齢者の運動教室の継続要因	18
		助手	荒武舞	基礎看護教育における標準予防策の教育方法に関する研究	19
		助手	冨永かほり	看護観形成を促進する教育の研究	20
	精神看護学	教授	川村道子	精神科病院管理職者の為の人材育成力支援プログラム開発	21
		講師	葛島慎吾	精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践に関する研究	22
		助教	河野義貴	精神疾患に関する早期介入と再発予防	23
		助手	池間功一	精神科病院における退院支援に活かす精神科退院前訪問に関する研究	24
	在宅看護学	教授	川原瑞代	地域志向の看護力育成	25
		講師	中角吉伸	要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究	26
		助手	武田あゆみ	高齢者のQOLに関する研究	27
		助手	宮ゆうこ	がん終末期高齢者の”その人らしさ”を支える訪問看護の特徴	28

宮崎県立看護大学 研究シーズ集　2024年度版　　目次

分野	領域	職位	氏名	研究テーマ	頁
専門分野	公衆衛生看護学	教授	小野美奈子	保健師の実践力強化を目指した現任教育	29
		教授	松本憲子	母親の育児力形成支援に関する研究	30
		准教授	中村千穂子	がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発	31
		講師	河野朋美	知的障害者の受診支援／健康管理支援	32
		講師	高橋秀治	地域における生活習慣予防活動に関する研究	33
	母性看護学	准教授	壹岐さより	妊孕性に重点をおいた思春期健康支援	34
		講師	大野理恵	更年期女性への健康支援に関する研究	35
		助教	田丸喜代子	産後マイナートラブルについての研究	36
	小児看護学	准教授	甲斐鈴恵	健やかな親子を育む子育て支援に関する研究	37
		講師	荒武亜紀	先天性心疾患の子どもと家族への支援	38
		助教	五反田奈々	医療的ケアを必要とする子どもの養育者が子育ての喜びを感じるプロセスと要因	39
		助手	原口優美	医療的ケアの必要な患者とその家族への支援	40
	成人看護学	教授	久野暢子	HIV陽性者へのセクシュアルヘルス支援	41
		准教授	矢野朋実	遺伝性のがんの患者と家族への看護	42
		講師	坂下恵美子	終末期患者の看取りにかかわる看護師支援の研究	43
		助教	上富史子	1. 3～5年目中堅看護師の臨床判断 2. 計量テキスト分析を用いた実習前の看護学生のアセスメントの特徴	44
		助手	川西幸広	看護学生の技術習得に関する研究	45
	老年看護学	教授	重久加代子	がん看護におけるケアリングの研究	46
		准教授	緒方昭子	タッチケアによる苦痛緩和効果	47
		助教	郡ハルミ	高齢者の転倒予防支援に繋がるフットケア研究	48
	看護統合	准教授	勝野絵梨奈	感染看護における教育方法に関する研究	49
		講師	武田千穂	新興感染症の危機管理に向けた地域の看護職人材育成と感染対策支援システムの構築	50
別科助産専攻		教授	濱嵜真由美	育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プラグラムの開発	51
		講師	神薗洋子	高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究	52
		助教	蚊口理恵	妊産婦の不眠に対する認知行動療法（dCBT-I）の介入と効果	53
		助教	福永美紀	熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセス	54
		助手	長友舞	女性の健康支援に関する研究	55

研究テーマ

看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築

キーワード：『看護覚え書』、自然界、生活、教育

領域・氏名

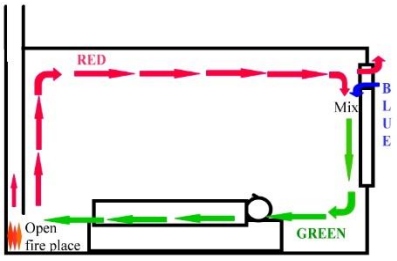
普遍（自然界と看護）准教授／　小河一敏

概要

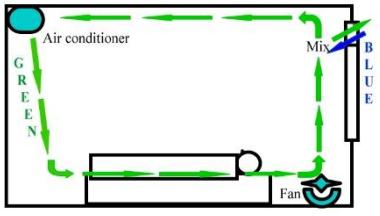
ナイチンゲール著『看護覚え書』を学生が理解できるための自然科学教育、体得できるための生活科学教育の構築がテーマです。

具体的な内容

『看護覚え書』第1章「換気と保温」の章でナイチンゲールが説く方法の根拠を、「伝導・放射・対流」という熱の伝わり方から説きました。19世紀英国の暖炉のある部屋の整え方を学ぶことで、学生は21世紀日本のエアコンのある部屋の整え方を考えます。



19C英国の部屋



21C日本の部屋

「住居の健康」「ベッドと寝具類」等々についても同様に学生がセルフケア能力を体得できる体系的教育方法を構築しています。

「変化」では「窓の外を見たがった患者を背負って外を見せたため重病にかかった看護師」が紹介されています。学生が自身を傷めないため、ボディメカニクスの体系的教育も実践しています。

Information（情報）

- 『看護学生、宇宙を学ぶ』を刊行
- 生活を体系的に学ぶための「『看護覚え書』に学ぶ生活科学ワークノート」「同ガイドブック【教員用】」を刊行
- 日本看護学教育学会第29回学術集会 「看護ハナマル先生」
- 京都大学高等教育研究開発推進センターMOSTギャラリー

研究テーマ

高齢者の介護予防運動の開発と普及

キーワード：高齢者、介護予防運動、健康寿命、体力

領域・氏名

普遍分野（健康スポーツ科学）　教授／　串間敦郎

概要

2004年から県内各地で、「高齢者を元気に」をテーマに介護予防運動の普及・啓発に努めてきました。
健康寿命の延伸や体操開発など、地域の皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。

具体的な内容

転倒予防体操を三股町で「はんとけん体操」、旧佐土原町では「ひっこけん体操」として作製し、行政と協働で各地で普及・啓発に努めてきました。2013年からは宮崎市の健康運動教室で使用する11種類からなる介護予防運動「宮崎いきいき健幸体操」を宮崎市と共同で作製し、市内約130の教室で活用されています。

これまでに、介護予防運動の実証的な効果測定や、ラダー運動等の新しい予防運動の開発を行ってきており、高齢者の健康寿命の延伸に向けて研究を進めています。

Information（情報）

現在宮崎市と共同で、運動教室の指導員養成や介護施設等の職員向けに、介護予防運動の専門研修会を行っています。

高齢者の健康寿命延伸の出前講義、共同研究等可能です。若年期から壮年期までの健康の維持・増進のための出前講義（姿勢矯正、ウォーキング等）も行います。

研究テーマ

研究倫理審査委員会の審査の質向上について（事務局スタッフへの教育など）

【キーワード：研究倫理】

領域・氏名

普遍分野（人間社会と看護）教授／岩江荘介

概要

質の高い研究倫理審査には、委員会を支える事務局の存在が不可欠である。そこで、AMED事業「高品質のIRB審査の基盤となるIRBクラブの設立およびIRB運用ハンドブックの作成と普及に関する研究」での活動を通じて、事務局スタッフ向けの教育の充実を図る。

具体的な内容

これまで、上記AMED事業において「IRB Office Club」の立ち上げに参加（取りまとめ機関：大阪大学）。今後は、同クラブでのセミナーや会合等の充実化への取り組みを通じて、倫理委員会の事務局スタッフの能力向上や、倫理委員会による審査の質向上の実現を目指す。

information

「IRB Office Club」のホームページ：
http://www.dmi.med.osaka-u.ac.jp/acr/irbees/index.html

研究テーマ

多読学習の効果、看護学生と異文化理解

キーワード：英語、多読学習、異文化理解

領域・氏名

普遍分野（個の尊重と看護）　教授／　川北直子

概要

看護系大学生を対象とする英語教育のあり方の向上を目指した研究のほか、早期学習者(幼児・児童)から大学までの多読学習の長期継続による成果や、語彙に関する研究をしています。

具体的な内容

看護学生を対象とした研究では、英語と異文化理解を統合した授業のあり方、海外研修によって看護系大学の学部学生が何を学べるのかについて、洋書読書を通した学習の意義・効果・課題について分析し、教育の改善に取り組んでいます。また、小中高校生と大学生一般を対象とした多読学習への導入と長期継続による効果について、語彙分析と学習者分析の視点から研究しています。学習者の個別性による課題を見出し支援できるよう、学習者1人1人をそれぞれ6-10年程度観察し続けています。

Information（情報）

小中学生を中心とした週末英語活動を行っています。英語読み聞かせ・多読学習への導入など、関心があれば見学にいらしてください。（現在はCovid-19のため、オンラインで継続中）

研究テーマ

国際コミュニケーションツールを備えるため

キーワード：異文化間コミュニケーション、ESP、ENP

領域・氏名

普遍分野（個の尊重と看護）　講師／　ヘンスリー ジョール

概要

生活習慣の認識と尊重、またコミュニケーションについて、特に異なる文化的背景の患者さんと行うことができるよう、看護学生のための教育方法論を模索しています。

具体的な内容

看護大学生が、国際化の進む世界に出て行くために準備できるような英語教育の目標をもって、看護と異文化間コミュニケーションの交差地点で研究を行っています。私の研究のほとんどは英語の教授法に関してですが、過去数年間は、英語が専攻でない学生に向けた英語教育に専念してきました。この専門のための英語として知られている研究は、看護学生が将来のキャリアに向けて準備が整うよう、英語、看護、および異文化間コミュニケーションが重なり合うコミュニケーションスキルの向上について模索しています。これは、他の文化の患者さんをケアするだけなく、旅行や、ボランティア、また海外での自分の研究を行うためのものです。この数年、この研究の多くは連携して行われ、看護大学生の英語教育についての見識が深まりつつあります。

Information（情報）

今、日本の看護専門家の異文化体験インタビュー調査結果と、看護英語教育に関する共同研究プロジェクトで模擬患者のロールプレイ開発を行っています。異文化間看護体験のある看護専門家の方の募集をしていますので、そのお話が大歓迎です。

研究テーマ

日本上代文学作品の文献学的研究

キーワード：古事記、日本書紀、風土記、万葉集

領域・氏名

普遍分野（文化と看護）　教授／　大館真晴

概要

上代文学作品（古事記・日本書紀・風土記・万葉集）の表現を研究しています。 古事記・日本書紀・風土記・万葉集には、古代の社会制度や人々の生活のあり様を今に伝える貴重な情報が数多くあります。その魅力に一つ一つ迫っていきたいと思い研究しています。

具体的な内容

現在は大きく二つの研究テーマがあります。一つは古事記・日本書紀・風土記といった、上代散文作品と中国古典文学作品の影響関係を考察するものです。もう一つは、古風土記の写本の字体と、木簡や正倉院文書などの字体との比較研究を行うものです。

Information（情報）

2014年より小学生・中学生・高校生を対象にした、出前講座「記紀みらい塾」（宮崎県文化振興課）の講師をつとめています。その出前講座では、古事記・日本書紀・風土記に記された日向神話の魅力を発信しています。

研究テーマ

睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力

キーワード：睡眠、心拍測定、ホルモン測定

領域・氏名

普遍分野（文化と看護）　准教授／　長坂 猛

概要

日常的な生活の中で得られた睡眠の質と、目覚めた後の情報処理能力や、疲労・眠気の相関を調べます。生理的な信号やホルモン物質の変動をもとに、翌日のパフォーマンスを予測することをめざしています。

具体的な内容

これまで環境変化に伴う生理的な応答（心拍とか唾液ホルモン）について測定をしてきました（科研費： 26463219など）。
現在は眠りの効果に興味を持っていて、睡眠中の身体の動きや、心拍変動、唾液ホルモンなどから、眠りの質的な評価を試みています。ちょっとだけデータ処理もするので、心拍の時系列データを使って自律神経活性の様子なども可視化しています。睡眠の質が影響する（と思われる）翌日のパフォーマンスを調べる手法についても模索していて、各種の判断テストやトラッキング作業などに注目しています。

Information（情報）

もともと医療従事者ではないので、看護系のかたに医療に関するアドバイスやサポートを受けながら、研究をしています。他大学のチームとも共同で実験をすることがあります。

研究テーマ

看護大学生の生化学(代謝学)教育に効果的な教育内容と教授方略

キーワード：生化学(代謝学)、到達目標、教育内容、教授方略

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ）　特任教授／　菅野幸子

概要

看護学教育の充実に寄与することを目的とし、専門基礎科目である生化学(代謝学)の教育内容と教育方法の検討に取り組んでいます。看護学生が生化学(代謝学)をより本質的に理解し活用できる教育プログラムの構築を目指しています。

具体的な内容

専門基礎は看護実践の根拠となり、学生が可能な限り多くの専門基礎知識を十分に理解できることは大切です。これまで、生化学(代謝学) 教育の到達目標の段階的表示に取組み、いわゆる生化学の枠組みを超えて、生命現象における代謝の意味するところに焦点をあて、“栄養素の「代謝学」”で教授する教育内容と、栄養素の【摂取–自己化–排出】のストーリーで、物質の変化を身体の構造・機能とつなげて具体的にイメージする教育方法により、省察的教育実践を重ねてきました。教育プログラムの有効性について検討しています。　日本看護学教育学会誌, **31**, 155-164, 2021

Information（情報）

生化学(代謝学) 、栄養学の講義、代謝学・栄養学の実験実習などを担当してきました。生化学、食育、栄養などに関する出前講義が可能です。

研究テーマ

宮崎の産婦人科医療及び看護の発展を目指す

キーワード：産婦人科、周産期医療、婦人科医療

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ）　教授／　川越靖之

概要

宮崎大学産婦人科で30年間臨床、研究を行ってきました。看護大学では、その研究の継続とともに看護の立場からの研究も行います。それらの研究の還元により宮崎県の産婦人科医療の発展、看護のレベルアップに寄与します。

具体的な内容

宮崎県はお産に関する周産期医療は全国トップレベルを維持していますが、婦人科医療においては遅れが顕著です。子宮頸がんの罹患率が宮崎県は全国一である一方、その予防となるHPVワクチンの接種率および早期発見のための子宮がん検診率は低迷しています。そこで2023年度から宮崎県と協同し子宮頸がんに関して県レベルでのデータの集積、分析を行います。また教育の中でもこの様な婦人科及び周産期に関する生きたデータを学生と共に検討、共有することで問題意識を持った看護師の育成を目指します。

information

宮崎県産婦人科医会主催のセミナー等において産科、婦人科関連の講演を行っています。産婦人科医療全般についての出張講演が可能です。

研究テーマ

健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究

キーワード：睡眠、自律神経反応、唾液ホルモン、ストレス

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ）　教授／　田中美智子

概要

自宅での睡眠評価を通して、「生活上でのストレスが睡眠に及ぼす影響」や「睡眠状態が翌日の日常生活のパフォーマンスに及ぼす影響」を検討し、日常生活の質を向上させるための睡眠ケアとその効果について研究しています。

具体的な内容

これまで、成人、高齢者及び更年期女性を対象とし、自宅での睡眠を検討してきました（科研費:23493466, 15K11896, 19K11093）。成人女性では性周期で睡眠の質に影響する要因が違ってくることや更年期女性では勤務日と休日での睡眠や自律神経反応への影響の違いなどを明らかにしました。これらの研究を通して、睡眠が生活上のストレスに影響を受けていることが考えられましたが、その具体的内容を明らかにするには至っていません。また、翌朝の日常生活のパフォーマンスにも影響を与えるため、今後、個人の生活習慣を把握し、それにあった睡眠改善ケア（呼吸法やアロマなど）を行い、その効果を明らかにしていきたいと考えています。

測定機器：心拍モニターや体動などを捉えるモニターで眠りを調べています。

Information（情報）

本研究は福岡県立大学、宮崎大学、鹿児島純心女子大学との共同研究です。また、神奈川県立保健福祉大学、静岡県立大学や三重県立看護大学他の先生方とも「温めること」に関する共同研究を行っています。「睡眠・覚醒」、「ストレス」や「呼吸法」に関するテーマでの出前講義が可能です。

研究テーマ

1．睡眠と日常生活の質改善プログラムの構築
2．遺伝性のがんをもつ人とその家族への看護支援

【キーワード：1．睡眠/自律神経/唾液ホルモン/ストレス
2．遺伝性疾患/家族間コミュニケーション

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ）助教／　野末明希

概要

1．成人先天性心疾患患者、働き盛りの更年期男性を対象とした睡眠や日常生活の質向上を目指した研究を行っています。
（科研費：19K19565、23K10034）
2．遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）をもつ人の遺伝情報に関する家族間コミュニケーション支援の研究を行っています。

具体的な内容

1．睡眠に関連のあるストレス反応や自律神経を心拍モニターや唾液ホルモンを用いて長期に測定します。その実態をもとに、睡眠の状況が改善できるケアを取り入れ、効果を評価し、睡眠の改善プログラムを構築します。
2．HBOCと診断された人が遺伝情報を親子間で共有していく様相について質的に分析し、看護支援の示唆を得ます。

information

1．良質な睡眠は心身の健康のために欠かせません。
年齢や疾患の有無など、背景が異なる対象集団の睡眠の実態調査や睡眠と日常生活の質改善のためのケアの創出を目指します。
2．宮崎大学との共同研究です。遺伝性疾患とともに生きる人と家族の支援について、当事者の語りを重視し探究します。

研究テーマ

看護学生の職業コミットメントに関する研究

【キーワード：職業コミットメント、メタ認知、看護師離職】

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅱ）講師／　加藤沙弥佳

概要

「看護基礎教育の中における職業コミットメントの形成が、その後の組織定着を高めることが明らかになっています。そのため、職業コミットメントを高める経験を明らかにし、職業コミットメントを促進する教育プログラムの構築を図ることを目的とした研究に取り組んでいます。

具体的な内容

職業コミットメントは「職業に対する感情的な反応に基づく、人とその職業との間の心理的なつながり」と定義され、情緒的・功利的・規範的コミットメントの3要素モデルで説明されます。看護師は専門性の高い職業であり、自らを「組織人」としてよりも、「職業人」としてコミットメントする傾向が強く、職業コミットメントが高い新人看護師は有能かつ仕事への満足度が高いことが明らかになっています。職業コミットメントは、看護職への関与を体験できる実習や演習により促進され、学年が上がるごとに変化しますが、具体的にどのような教育的要素としての経験が関与しているのか明らかになっていません。そこで、職業コミットメントに影響を与える教育的要素を明らかにするとともに、それらの教育的要素を取り入れた教育プログラムを構築し、プログラムの効果について検証していきたいと考えています。

information

看護師の離職問題、看護師のメンタルヘルス支援、認知行動療法に関するテーマの共同研究を希望します。精神専門看護師として、看護職者を対象としたメンタルヘルス支援の経験がありますので、職員を対象としたメンタルヘルスに関する研修を行うことが可能です。

研究テーマ

特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する分析とその可視化～自治体への支援のために～

キーワード：地域、健康データ、分析、可視化、支援

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅲ）　教授／　中尾裕之

概要

地域で収集された健康データを客観的・科学的に分析し，様々な事業に活用できるよう，分析手法や可視化の方法の改良などに取り組んでいます。また，データ解析や量的研究デザインに関して，看護研究へのサポートを行っています。

具体的な内容

医療や保健施策の分野においては，健康日本21，健康増進計画，医療費適正化計画などにおいて，実態の把握と課題の明確化，数値目標の設定を含む計画の策定，数値目標の評価と計画の見直しというPDCAサイクルを展開して保健事業を実施することが求められています。昨今，健診・保健指導・医療費・介護等のデータが利用可能なデータベースが整備されてきていますが，実際の分析や事業への利活用まではハードルが高く，大学等の研究機関による支援が求められています。

そこで我々は，地域で収集された健康データを客観的・科学的に分析し，様々な事業に活用できるよう，分析手法や可視化の方法の改良などに取り組んでいます。

この他に，高齢者のセクシュアリティに関する研究，飲酒量と総死亡の関係についてのメタ・アナリシスなどの研究を行っています。また，データ解析や量的研究デザインに関して，看護研究へのサポートを行っています。

Information（情報）

データの集計方法，データの可視化の方法，基本的な統計手法，量的研究方法などに関する出前講義が可能です。

研究テーマ

高齢者施設における感染対策に関する研究

キーワード：感染対策、高齢者福祉施設、出前研修

領域・氏名

看護（基礎看護学）　准教授／　邊木園幸

概要

高齢者施設における感染対策に関する実践型出前研修プログラムを構築しました。高齢者施設のご要望をふまえて、施設へ出向いて研修を行います。そのような取組みを通して、高齢者施設の感染対策の充実を図ることを目指しています。
構築したプログラムの検証が今後の研究課題です。

具体的な内容

基本編（①標準予防策、②環境整備、③物品の洗浄と消毒、④標準予防策の実技演習）
応用編（⑤おむつ交換・陰部洗浄、⑥吸引・口腔ケア、⑦インフルエンザ、⑧感染性胃腸炎、⑨疥癬、⑩薬剤耐性菌、⑪結核、⑫新型コロナウイルス感染症）
上記全12項目の中から、高齢者施設側に研修希望項目を2-3項目選択していただきます。講師は県内の感染管理認定看護師が高齢者施設へ出向いて研修を実施します。その研修を通して、研修内容の検証をしていきたいと考えています。

Information（情報）

医療機関だけでなく高齢者施設や福祉施設等の感染予防・感染対策も地域の課題と考え、試行錯誤しながら取組んでいます。感染管理に関する出前講義が可能です。

研究テーマ

看護理論の修得過程 ／ 人権・倫理教育の構築

キーワード：看護理論、人権・倫理、医療・看護の歴史

領域・氏名

看護（基礎看護学）　准教授／　毛利聖子

概要

ナイチンゲールを軸に、よりよい看護実践ができるように、看護理論を修得するプロセスに着目し、看護理論と実践の繋がりを研究しています。また、医療や看護の歴史をたどり、人権を護り、人間に対する深い理解と倫理観を培う教育内容の構築を目指しています。

具体的な内容

実践の現場で対応困難な事例、方向性が見えない事例など、事実を整理し、事例検討会を行っています。どのように対象をみていけばよいのか、どこにどのような問題が存在しているのか、など看護理論を活用し検討しています。また、看護の基盤となる人間の見つめ方、人間理解を深めるために、人間が病む人をどのように見つめて来たか歴史を辿り、現在の人権擁護・医療者の倫理を考えます。

Information（情報）

事例検討会のチューターを行っています。「科学的看護論」の理論枠組みに基づく「実践方法論」を適用し、よりよい看護実践に向けて共に考えていきます。看護の基盤となる考え方をもとに、看護の質向上をめざした取り組みを現場の皆さんと共に行っています。

著書:『看護理論の修得過程における共通構造の可視化』
研究報告：『看護学生が学ぶ「人権論」の授業への試み』
短報:『看護学生の「医の歴史と倫理」の授業からの学び』

研究テーマ

慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援

キーワード：慢性疾患、看護、療養生活支援

領域・氏名

看護（基礎看護学）　講師／　山岡深雪

概要

慢性疾患を抱えて生活している患者がその人らしく療養生活を送ることを支える看護について研究していきたいと考えています。

具体的な内容

慢性疼痛患者の生活再構築を支える看護師の関わりを研究素材とし分析した結果から、患者が生活過程を振り返り調整できるよう支えることが大事であるとの結果を得ました。今後は、慢性疾患の悪化や発見によって入院されたが、現在、在宅療養でコントロール良好な方のインタビューを通して、その方々の生活過程の振り返りの在り方について抽出していければと考えています。

Information（情報）

糖尿病看護や、リハビリテーション看護、慢性疼痛患者への看護に関する共同研究を希望します。

研究テーマ

実習指導の自己評価に関する研究

キーワード：臨地実習、実習指導、指導過程、自己評価

領域・氏名

看護（基礎看護学）　助教 ／　坂井謙次

概要

臨地実習指導において、学生の関わりが患者にとって看護となるように指導できているかと、指導を自己評価しながらより良い指導となるよう努めることが求められます。諸現象が絡み合う実習状況において、どのように自己評価することがより良い指導につながるかについて研究しています。

具体的な内容

これまで、実習指導場面を患者―学生―教員の関係性から見つめ、指導後の学生や患者の変化の意味や教員の指導上の判断について分析、検討してきました。そして、抽出した「実習指導の自己評価の構造」を活かし、実習指導に困っている指導者の役に立てればと思っています。
患者と学生にどのような関わりがあったのか、学生と指導者にどのようなやり取りがあったのかという実習指導過程とのつながりをもって、意識していなかった指導者自身の認識を事実的に見つめなおすことで、多くの気づきが生まれます。その気づきは、実習指導のやりがいにつながっていくと実感しています。

Information（情報）

実習指導の振り返りだけでなく、看護実践の振り返りについての検討において、連携が可能です。

研究テーマ

高齢者の運動教室の継続要因

キーワード：高齢者、運動、継続

領域・氏名

看護（基礎看護学）　助教／　原村幸代

概要

高齢者を対象とした運動教室への参加の継続要因に関する研究を行っています。

具体的な内容

高齢者の健康寿命の延伸の必要性がいわれ、多くの地域で運動教室が開催されています。高齢者が健康に生活していくためには、運動を継続することが必要であると考えました。そこで、高齢者を対象とした運動教室への参加を継続する要因に関する研究に取り組んでいます。

Information（情報）

研究テーマ

基礎看護教育における標準予防策の教育方法に関する研究

【キーワード：基礎看護、標準予防策】

領域・氏名

看護（基礎看護学）助手／　荒武 舞

概要

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、医療を提供する場において標準予防策を徹底することの重要性を再認識しました。標準予防策の実施につながる教育方法に関心があります。

具体的な内容

感染管理認定看護師として医療施設内の感染予防・制御に関わり、様々な職種とともに標準予防策の徹底に取り組んできました。この経験から、これから看護専門職者となる方々が学ぶ基礎看護学のなかで、標準予防策に関する考え方の理解、感染予防に関する基礎技術の習得につながる教育方法について研究を通して学びを深めたいと考えます。

information

研究テーマ

看護観形成を促進する教育の研究

キーワード：看護教育　看護観

領域・氏名

看護（基礎看護学）　助手／　冨永かほり

概要

看護観は看護実践を支えるとともに、表現技術として反映されます。看護基礎教育のなかで、学生は看護観をどのように形成し発展させていくのか、また看護観形成を促す教育の在り方について関心があります。

具体的な内容

これまで臨床で後輩指導やスタッフ教育に携わるなかで、個々の看護観をどのように発展させたら、対象をより良く整えられるだろうかと考えることがありました。教育する難しさを感じていたことから、学生への指導を通して看護観形成促進における看護教育の在り方について研究をしていきたいと考えます。

information

研究テーマ

精神科病院管理職者の為の人材育成力支援プログラム開発

キーワード：精神科病院、看護管理職、人材育成

領域・氏名

看護（精神看護学）　教授／　川村道子

概要

精神科病院への新卒看護師就職は1施設平均2.2人と極めて少ないことから、貴重な人材として育成していきたいところですが、教育担当者が新人教育を行う過程での悩みからメンタルダウンをきたす場合もあります。そうならないためには、新人看護師の成長を支えることに耐えうる土壌を作り、組織全体での取り組みが必要となります。教育体制や教育内容等を検討する立場にある看護管理者の人材育成力を支援するプログラムを開発し、組織全体で優れた看護師を育成する取り組みが見られるようになることを期待します。

具体的な内容

３回シリーズの研修会ですが、精神科病院組織全体で人材育成を行うことに関する課題を整理したうえで、どのような能力を備え、どのような取り組みをすることが求められるかを探る演習も行います。

Information（情報）

【研究成果について】宮崎県立看護大学看護研究・研修センターの地域貢献事業として令和６年度まで継続して実施する取り組みです。実践内容は取り組みの成果等は事業年報で報告していきます。
【実践・出前講座について】各病院で実施する研修会に出向くこともできます。どうぞお問い合わせください。

研究テーマ

精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践に関する研究

キーワード：精神障害者、セルフコンパッション、看護実践

領域・氏名

看護（精神看護学）　講師／　葛島慎吾

概要

近年、精神障害者の地域移行が推進されていますが、精神障害者の地域移行は、当事者の精神症状や社会性の低下に加えて、スティグマやセルフスティグマによる自己批判的な思考が影響して難しいといわれています。このような、自己批判的な思考に対して、優しさを持って向き合い、自分自身をありのままに認めることにつながる概念としてセルフコンパッションがあり、精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践について探求しています。

具体的な内容

セルフコンパッション概念に関する文献検討を通して、精神障害者のセルフコンパッションを「精神障害を持っていても、困難な状況により生じた苦しみを他者とのつながりの中でありのままに受け止め、現実への適応につなげていく力」と定義した上で、精神障害者のセルフコンパッションを高めるために看護師がどのような看護実践を行なっているかを明らかにすることを目的に、インタビュー研究を行っています。

Information（情報）

セルフコンパッションはバーンアウト予防など看護師の精神的健康にも有用な概念ですので、看護実践だけでなく、メンタルヘルスに関連した研修実施が可能です。精神看護専門看護師としても活動していますので、お問い合わせください。

研究テーマ

精神疾患に関する早期介入と再発予防

キーワード：性教育、マインドフルネス

領域・氏名

看護（精神看護学）　助教／　河野義貴

概要

　思春期男性の声を聞きながら、悩みを小さくし、社会の中で生きる力が身に付けられるプログラムを検討しています。
　また、マインドフルネス（瞑想）を使って、メンタルヘルス研修を行い、思考や気持ちを整えるための研修を行っています。

具体的な内容

　これまで児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育』』のプログラム作成に携わってきました。
　女性の月経教育は充実しつつありますが、男性の性教育は確立できていない段階です。思春期の男性の疑問や悩みを聞きながら性教育を行っています。性の問題は「生きる力」と深くつながっており、「生きる力」を身に付ける事はその後の人生を大きく左右します。変化する社会の中で柔軟に対応できる「生きる力」を身に付けられるプログラムを検討しています。
　また、マインドフルネス（瞑想）を使って、未来を予測して抱く不安や過去の後悔を忘れて、今、その時の感覚に集中して日々の生活を充実できるようにするための研修を行っています。

Information（情報）

　「男性の性教育」「マインドフルネスを活用したメンタルヘルス研修」を行っています。このテーマでの出前講座は可能です。

研究テーマ

精神科病院における退院支援に活かす精神科退院前訪問に関する研究

キーワード：地域移行支援、精神科退院前訪問

領域・氏名

看護（精神看護学）　助手／池間功一

概要

日本の精神科では在院日数の長期化が課題となっています。そこで私は、精神科病院において患者様が退院後地域生活を送るために必要な看護について研究を行っています。

具体的な内容

精神科では患者様の地域移行が進められていますが、現状では、地域移行が困難である事例も少なくありません。その中で、精神科退院前訪問は制度開始以降、様々な病院で活用されています。しかし、具体的な内容については各病院にゆだねられており、各病院によって様々な運用がなされている現状があります。精神科退院前訪問で得た情報や指導内容と病棟内看護とを循環し、患者の退院支援に活かす退院前訪問の在り方を明らかにすることで、「入院治療から地域中心へ」という精神保健福祉の改革ビジョンを実現に貢献できる一助となると考えています。

information

研究テーマ

地域志向の看護力育成

キーワード：訪問看護、教育プログラム、地域志向

領域・氏名

看護（在宅看護学）　教授／　川原瑞代

概要

在宅療養が推進される中、地域包括ケアの中で力を発揮できる看護師の育成が求められています。地域を志向した看護力の現状や課題の分析や地域特性とニーズをふまえた、地域志向看護教育プログラムの開発等に取組んでいます。

具体的な内容

「地域特性に応じた地域連携の実際」「訪問看護ステーションの機能強化に関わる実態」「新卒訪問看護師育成のための標準プラグラムの開発と検証」等について、宮崎県、宮崎県看護協会、訪問看護ステーション、医療機関等と協力し実践活動や研究活動に取り組んでいます。段階的な教育プログラムの作成や研修体系の構築の中でも特に、OJTとOff-JTが連携した、新卒訪問看護師の教育の在り方が近年の重要なテーマです。

　一般的に、経験豊富な訪問看護師が就業すると考えられている訪問看護ステーションですが、療養者や家族のニーズが多様化し、訪問看護人材の不足が深刻な問題となっており、新卒訪問看護師の養成には大きな期待が寄せられています。これまでの取組で、それぞれの成長に合わせた支援の重要性や課題、新卒訪問看護師や管理者、プリセプターへの支援の重要性、育成プログラムの有用性などが明らかになっています。

Information（情報）

専門職向けには在宅看護、地域包括ケア、地域志向の看護力などについての研修、一般の方向けには高齢の方への介護や健康づくり等の研修に携わっていますので、お問い合わせください。また、新卒訪問看護師育成に興味のある方、ぜひお知らせください。

研究テーマ

要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究

キーワード：介護予防、運動プログラム、高齢者

領域・氏名

看護（在宅看護学）　講師／　中角吉伸

概要

　要支援・要介護状態の高齢者が、本人の望む場所で生活・療養するためには、日常生活動作（以後ADL）が維持され介護度が上がらないことが重要となります。そのために、できるかぎりADLを維持するための運動プログラムについて研究しています。

具体的な内容

　これまで、宮崎県立看護大学と宮崎市が協力して、健康高齢者の介護予防のために介護予防運動プログラム「宮崎いきいき健幸体操」の開発や普及を行ってきました。その中で、普及活動の一環として運動指導員の養成や施設職員に対する専門研修会等で、運営の一員として参加してきました。会を重ねる中で、実際に運動指導を行っている現状において、要支援者や要介護者に運動プログラムを適用することが困難であるという問題が浮き彫りになってきました。
　少子高齢社会を向え、将来の年金や医療制度の維持存続が不安視される中、高齢者の健康寿命を延伸する支援が求められます。しかし、高齢者は個々の病歴や生活歴によって運動機能に差があり、安全に効果的に運動プログラムを実施する難しさがあります。そのため、自助や互助によって、地域住民同士でも健康増進が図れるツールの開発が急務と考え、研究に取り組んでいます。

Information（情報）

　「宮崎いきいき健幸体操」を基に、運動指導をする指導員の養成講座や、高齢者施設の職員に対して研修会を行ってきました。高齢者の健康維持増進に向けた運動指導等のテーマで出前講義が可能です。

研究テーマ

高齢者のＱＯＬに関する研究

キーワード：高齢者　QOL

領域・氏名

看護（在宅看護学）　助手／　武田あゆみ

概要

　高齢者が最期までその人らしく「生ききる」ことを支え、いかなる状態であろうと、生命が存続する限り、ひとりの人として、その人らしく生を全うできるよう支援するための看護を研究したいと考えています。

具体的な内容

　臨床看護師として「死」の場面に立ち会った時、「自分の看護はこれでよかったのだろうか」という不安を抱いてきました。最期までその人らしく、ＱＯＬを最大限に保ちながらその人にとってのよい死を迎えられるようにする看護について興味をもち、 高齢者のＱＯＬに関する研究の文献研究に参加しました。これまでに自己の取り組みとしての研究実績はないのですが、研究・教育を通して深めていきたいと考えています。

Information（情報）

研究テーマ

がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護の特徴

キーワード：その人らしさ、訪問看護、がん終末期

領域・氏名

看護（在宅看護学）　助手／　宮ゆうこ

概要

がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護の特徴を見出す研究に取り組んでいます。

具体的な内容

実習指導者として学生指導を行った際、高齢のがん終末期療養者へのケアを行っていた訪問看護師が、本人の望む生活や、生活リズム、医師の指示などを考慮しながら、本人の楽しみにしている生活を続けられるように関わっている姿に触れ、これらのケアを提供した訪問看護師は、療養者の「その人らしさ」をどのように捉えているのか、その人らしさを支える訪問看護の特徴にはどのようなものがあるのか、と考えるようになりました。人生の最期までその人らしい日々を過ごすことができるように、訪問看護師へのインタビューからその人らしさを支える訪問看護の特徴を明らかにしたいと考えています。

Information（情報）

研究テーマ

保健師の実践力強化を目指した現任教育

キーワード：保健師、現任教育プログラム

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）　教授／　小野美奈子

概要

保健師の人材育成能力、実践力向上を目指し関係機関と協働し、新任・中堅・リーダー期にある保健師に対し、現任教育研修の企画・実施・評価を行いながら現任教育プログラムの開発と教育体制整備をおこなっています。

具体的な内容

アクションリサーチ的方法を用い、これまでに「宮崎県における段階別保健師研修体系の構築」「各研修の標準プログラムの開発」「保健師現任教育マニュアルの作成」を行いました。これらの研究的取り組みにより、＜保健所を中心とした研修運営＞＜アクションプランの実践を基盤に据えた実践型研修＞＜コンサルタントによる受講生支援＞という特徴を持つ宮崎県の段階別保健師研修体制を作り上げることができました。
現在は「標準プログラムの検証」「研修による受講生の成長」「研修運営を通した保健所保健師の人材育成能力の向上の成果」を明らかにする研究に取り組んでいます。

Information（情報）

宮崎県立看護大学の地域貢献事業「保健師の力育成事業」として取り組んでいます。
宮崎県、宮崎県看護協会、宮崎県保健師長会、等の連携協働のもと研修会の開催、研究を行っています。
保健師向けに公開講座等の開催を行っています。

研究テーマ

母親の育児力形成支援に関する研究

キーワード：母親、育児力、育児支援

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）　教授／　松本憲子

概要

育児不安を持つ母親や児童虐待相談件数の増加が地域母子保健における課題となっています。このため、育児期のストレスが最も大きい一歳児を育てる母親の育児力の実態を「一歳児を育てる母親の育児力尺度」を用いて捉え、その結果をもとに、母親の育児力形成を促す支援について探求していきます。

具体的な内容

大学で開催していた子育て教室で、育児不安や育児ストレスのある母親の育児力を高める看護について明らかにする中で、現代の母親の育児力の低さに着目し、育児力に関する文献検討を行い、育児力を構成する概念について明らかにしました。その後、一歳児を育てる母親の育児力の実態を調査し、母親の育児力を高める支援の物差しとして、「一歳児を育てる母親の育児力尺度」の開発を行いました。

少子化になり、経験的に子育てを学ぶ機会が少なくなっている母親たちが行う育児は、時にネグレクト状態にある母親もおり、母子の愛着形成が不完全なまま子どもが育つことが懸念されます。このため、母親が安心して育児ができるための地域における育児力形成支援について考えていきます。

Information（情報）

「すべての母親と子どもに笑顔があふれるまちづくり」を目指して、地域母子保健に関係する方々とつながりたいと思っています。

研究テーマ

がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発

キーワード：がん体験　ピアサポート

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）　准教授／　中村千穂子

概要

現在、国民の2人に1人はがんにかかるといわれ、国のがん対策推進基本計画ではピアサポートの充実が述べられています。がんを経験した看護職者を対象に医療職者であると同時にがん体験者であるという2つの立場からがん患者のピアサポートができることを目指した研修プログラムの開発を目的としています。

具体的な内容

がんを経験した看護職者の患者会にてカフェやピアカウンセリングナース養成講座の開催に携わってきました。養成講座では、ピアサポートの基本や臨床倫理について、コミュニケーションについてなどを講義だけではなくロールプレイを交えながら学べる内容にしています。今後は、参加者がどのように学びを活かしているか、どのような研修内容が実践につながっているのかを明らかにしていきたいと考えています。その結果をもとに、ピアカウンセリングナース養成講座やフォローアップ研修の内容の充実を図っていきたいと考えています。

Information（情報）

がん体験を看護に活かしていきたいと考えている方たちと一緒にとりくんでいきたいと思います。

研究テーマ

知的障害者の受診支援／健康管理支援

キーワード：（知的）障害者の受診/健康管理
健康格差の縮小

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）　講師／　河野朋美

概要

地域で暮らす人々の健康格差を縮小するための支援について研究しています。なかでも知的障害者の方々は生活習慣病をはじめとする健康課題を多く有しているにも関わらず、医療機関の受診や自身での健康管理に困難を感じていることから、それらの現状の改善につながる具体的な取り組みを明らかにしたいと考えています。

具体的な内容

これまで「知的障害者の受診支援」をテーマに、知的障害者と保護者が医療機関の受診を困難と感じるプロセスや現状、ニーズから課題を明らかにしてきました。現在は、障害者就労継続支援B型事業所の健康管理に着眼し、体制強化とその支援に向けた調査やインタビューを行っています。

information

障害を抱える方やその支援者の方々と多くつながり、生の声をたくさん聞かせていただきたいと思っています。当事者の方、関係者の方のご連絡等お待ちしております。

研究テーマ

地域における生活習慣予防活動に関する研究

キーワード：生活習慣病予防、保健師

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）　講師／　高橋秀治

概要

生活習慣病は死因の約6割を占めるなど重要な健康問題となっています。生活習慣病は多くの要因が関連して発症・重症化していくため、対象に応じた予防活動が重要です。生活習慣病予防活動の具体的な方策について研究を行っています。

具体的な内容

現在は、壮年期独身男性のソーシャルサポートを活かした生活習慣病予防につながるセルフケア行動支援モデル・支援指針の開発に取り組んでいます。今後は、開発した支援モデル・支援指針に基づく保健指導の有用性を明らかにしていきたいと考えています。

また、2017年より日之影町と協働して町ケーブルテレビ放送を活用した健康づくりの実践研究にも取り組みました。本学保健師教育課程学生のともに、住民の方に町の課題や具体的な生活習慣改善の方法について気軽に学べるように番組を製作し、ライフスタイルに合わせて24時間視聴できるように環境を整備しました。今後は、これらの活動がもたらす住民の健康への効果について評価するとともに、ケーブルテレビ等のメディアを活用したヘルスプロモーション活動展開方法の開発をしていきたいと考えています。

Information（情報）

生活習慣予防活動や保健指導について、地域で活動されている専門職や住民の皆さんと一緒に考えていけたらと思っています。

研究テーマ

妊孕性に重点をおいた思春期健康支援

キーワード：思春期、性教育、妊孕性、不妊症

領域・氏名

看護（母性看護学）　准教授／　壹岐さより

概要

生殖補助医療の発展は目覚ましいものですが、その一方で不妊治療による悩みやこころの負担は決して小さいものではありません。不妊症を予防するためも男女とも思春期からの妊孕性の教育を含めた性教育を探求していきます。

具体的な内容

これまで児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育」のプログラム作成に携わってきました。性感染症や望まない妊娠を教育する性教育も大切ですが、自分の身体に関心を持ちながらセルフケアできる力が必要であることがわかってきました。また、生殖医療相談士として活動する中で、不妊治療中の心身の負担を軽減する必要性も感じてきました。女性も男性も思春期からセルフケアできるために必要な知識や教育について研究しています。

Information（情報）

すべての女性が自分のライフサイクルを見すえて出産できるような支援を目指して、地域の様々な職種と連携していきたいと考えています。

研究テーマ

更年期女性への健康支援に関する研究

キーワード：更年期、生活調整、健康支援

領域・氏名

看護（母性看護学）　講師／　大野理恵

概要

　更年期を迎える女性は身体面のみならず、心理・社会面でも変化が大きい時期を体験します。そして、症状の苦慮する人は多いですがその具体的な対処や予防法について理解し実践している人は少ないです。女性自らが更年期と上手に向き合うためのセルフケアができるよう、その支援の在り方を探求します。

具体的な内容

　これまで、男子学生を対象にした母性看護学実習の指導の在り方についての研究や中山間地域の思春期の健康支援について研究をしてきました。
　2021年度より更年期女性の健康支援に関わる事業と研究に取り組みます。更年期を迎える前の女性が自らの更年期に関心を持ち、正しい知識を身につけて、自身の体と心の変化をありのままに受け止め、セルフケア能力を高めて自分らしく過ごせるための支援について検討していきます。

Information（情報）

研究テーマ

産後マイナートラブルについての研究

【キーワード：　産褥期、骨盤底筋群、姿勢、運動　】

領域・氏名

看護（母性看護学）　助教／　田丸喜代子

概要

女性の健康について身体を支える骨盤底筋や姿勢の保持など身体的な側面からの支援の必要性について研究をしています。さらに女性の生涯における妊娠・出産・産後・更年期などの女性特有の様々なターニングポイントで変化する身体的健康支援について探求を続けています。

具体的な内容

これまで、産褥早期のマイナートラブルについて身体的な側面からの支援に焦点を当てた研究や中山間地域の思春期の健康支援、更年期女性の健康支援に関わる事業と研究に関わって来ました。またyoga講師、マットピラティスのインストラクター経験から県内保健所や企業等で女性への運動指導なども行っています。女性は女性ホルモンにより一生涯で身体的に様々な変化が行っています。そのターニングポイントを快適に過ごせるセルフケアの方法を一緒に考えていきます。

information

女性の各ライフステージで現れる身体的変化を運動支援を通して考えていきます。

研究テーマ

健やかな親子を育む子育て支援に関する研究

キーワード：子育て支援、おもちゃ、電子メディア

領域・氏名

看護（小児看護学）　准教授／　甲斐鈴恵

概要

　親子が集う場を提供し、子どもが健やかに育まれるために必要なニーズや課題を明らかにしています。現在は、乳幼児の電子メディア接触について研究を行っています。

具体的な内容

　優良なおもちゃを用いた「おもちゃ広場」を「グッド・トイみやざき」と協同で大学内および県や民間企業と連携し県内各地のイベント会場で開催しています。その活動の中から、子育てにおけるニーズや課題を明らかにしています。

　また、乳幼児の電子メディア接触について「子どもとメディアみやざき」と協同で実態調査を行い、その結果の一部を学会発表し、報告書を作成しました。また、啓発活動に活用できるリーフレットをともに作成しました。

Information（情報）

　上記活動は、「グッド・トイみやざき」、「子どもとメディアみやざき」との協同実践(研究)です。

　全ての親子が笑顔で過ごせることを願い、地域の様々な方と連携していきたいと考えています。

研究テーマ

先天性心疾患の子どもと家族への支援

キーワード：先天性心疾患、胎児診断、レジリエンス

領域・氏名

看護（小児看護学）　講師／　荒武亜紀

概要

先天性心疾患の子どもと家族に関する研究に取り組んでいます。現在は、胎児診断された先天性心疾患の子どもの母親に対する妊娠期からのレジリエンス促進のための支援について研究を行っています。

具体的な内容

胎児診断された先天性心疾患の子どもの母親は、妊娠期から子どもの不確かさや見通しがたたないなど不安や困難を体験しています。先天性心疾患の子どもは、重症な心疾患によって出生直後から根治手術までに手術を数回繰り返します。この間、周手術期を除いて子どもは、自宅で生活することが多いです。自宅での生活は、子どもが泣いて顔色が悪くなることでの育児の難しさ、子どもの状況判断の困難さ、薬を飲むのを嫌がり上手く飲めない、ミルクを上手く飲めない、ミルクを飲んだ後も泣いて抱っこで過ごすなど育児やケア方法に関する不安や困難感を抱えています。そこで、胎児診断された先天性心疾患の子どもの母親に対する妊娠期からのレジリエンス促進のための継続した支援のあり方を検討していきたいと考えています。

information

先天性心疾患の子どもと家族への支援、周手術期の子どもと家族への支援、医療的ケアのある子どもと家族への支援、子どもへのがん教育に関するテーマの共同研究を希望します。

小学生、中学生、その家族を対象に「小さい赤ちゃんの誕生！」「子どもの成長発達」「がん教育」に関するテーマでの出前講義が可能です。

研究テーマ

医療的ケアを必要とする子どもの養育者が子育ての喜びを感じるプロセスと要因

キーワード：小児　医療的ケア　子育ての喜び

領域・氏名

看護（小児看護学）　助教／　五反田奈々

概要

医療的ケアが必要な子どもをもつ養育者が、子育ての喜びを感じるまでのプロセスやその要因について明らかにする研究です。

具体的な内容

医療的ケアを必要とする子どもの家族は、わが子の疾患や障がいを告知されたときから、さまざまな心理的プロセスを経て、子育ての喜びを感じていることが明らかになりました。今後も在宅療養に必要な支援や看護師のかかわりの必要性について研究を進めていきたいと考えています。

information

研究テーマ

医療的ケアの必要な患者とその家族への支援

キーワード：　小児看護　医療的ケア

領域・氏名

看護（小児看護学）　助手／　原口優美

概要

疾患を持つ子どもは大きな手術を乗り越え、家族は必要な医療的ケアの技術を獲得していきます。子どもや家族が安心して自宅で生活するための看護師としての援助に関心があります。

具体的な内容

これまでは臨床看護師として、先天性心疾患を持つ患者とその家族と関わってきました。手術後に医療的ケアが必要となる患者も多く、臨床の現場では退院後の生活に向けての援助を行ってきました。子どもやその家族が自宅で安心して過ごすために必要な看護について興味があります。臨床での経験を振り返りながら研究を行っていきたいと考えています。

information

研究テーマ

HIV陽性者へのセクシュアルヘルス支援

キーワード：HIV陽性者、セクシュアルヘルス支援

領域・氏名

看護（成人看護学）　教授／　久野暢子

概要

HIV感染者/AIDS患者（以下、HIV陽性者）へのセクシュアルヘルス支援に関する現状や課題を明らかにし、よりよい看護支援を検討する研究です。

具体的な内容

これまでHIV陽性者の方へのより良い支援を目指して、在宅療養支援や看護師への教育方法の視点から研究してきました（科研費：17791592，21592894，25670915，17K12213）。その中で、HIV陽性者の方への看護支援においてはセクシュアルヘルス支援が重要であるにもかかわらず、多くの看護師が困難感を抱いていることが見え、早急に解決すべきと考えました。しかし、この「困難感」は目に見えないものであり把握しづらいため、現在、これを測定する尺度開発とそれを用いての現状解明からより良い看護支援への示唆を得るための研究を行っています。

Information（情報）

本研究は熊本大学や首都大学東京、国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センターとの共同研究です。宮崎県内で一緒に研究に取り組んでくれる方を募集しています。

研究テーマ

遺伝性のがんの患者と家族への看護

キーワード：遺伝性腫瘍、HBOC、遺伝がん看護

領域・氏名

看護（成人看護学）　准教授／　矢野朋実

概要

遺伝性のがん、特に遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）の方とその家族の遺伝情報に関するコミュニケーションを促進する看護援助モデルを構築しようとする研究に取り組んでいます。

具体的な内容

第3期がん対策推進基本計画によりわが国のがんゲノム医療は急速に実装化され、第4期ではがんゲノム医療の提供体制がさらに整備されて個別化医療が進展していきます。この中で、遺伝性のがんも注目されています。遺伝性のがんと診断された者の家系では、予防や早期発見の観点から、血縁者に病気について理解を促し、疾患に対して備えていくことが望まれます。そのために血縁間での情報共有は欠かせません。しかし、遺伝情報という特性故、難しいのが実情です。

がんの遺伝情報に関する家族間コミュニケーションの様相、医療提供者が捉えている課題を明らかにし、欧米で先行している支援方法を参考にしながら国内で活用できる支援モデルを見出していきたいと考えています。

Information（情報）

遺伝性のがんと共に生きる方への看護、子どもをもつがんと共に生きる方への看護、手術療法を受ける患者様・ご家族への看護、救急医療における看護に関するテーマの共同研究を希望します。

小学生や一般市民を対象にした救急蘇生法の講習も実施しています。

研究テーマ

終末期患者の看取りにかかわる看護師支援の研究

キーワード：看取りケア、看護師、支援

領域・氏名

看護（成人看護学）　講師／　坂下恵美子

概要

日本人の約７割のかたが病院や診療所などの医療機関で亡くなっています。多くの終末期がん患者は緩和ケア施設ではない、一般病棟で最期を迎えています。この一般病棟で全人的痛みを抱える終末期がん患者を支えるために、看護師が困難を乗り越え患者に寄り添う力を獲得していけるよう支援のありかたを考える研究に取り組んでいます。

具体的な内容

これまでに、一般病棟でがん患者の看護に携わり、看取りを経験した若手看護師に面接調査を行い、看護師が直面している困難について分析を行いました。また、一般病棟で看取りを経験した新人看護師に面接調査を行いました。新人看護師の多くは就職して初めて人の死を経験し、命の終末にかかわるからこそ感じる不安や悩みを抱えていることの示唆を得ました。

新人看護師ががん患者の終末期にかかわる過程で経験する困難を乗り越えて、患者に寄り添う力を獲得するめの支援を検討していきたいと考えています。

information

一般病院で新人看護師の教育担当され、新人の看取り支援・教育に興味や関心をもたれる方々との共同研究を希望しています。

研究テーマ

1. 3～5年目中堅看護師の臨床判断
2. 計量テキスト分析を用いた実習前の看護学生のアセスメントの特徴

キーワード：１．中堅看護師、臨床判断
２．看護学生、アセスメント

領域・氏名

看護（成人看護学）　助教／　上富史子

概要

1. 中堅看護師が潜在的に持っている自己の臨床判断を顕在化し、看護実践への自信確立につなげられるために、中堅看護師を対象とした研究に取り組んでいます。
2. 成人看護学における実習前の看護学生のアセスメントの特徴について、計量テキスト分析を用いた研究に取り組んでいます。

具体的な内容

1. 看護実践の中心的役割を担う3~5年目中堅看護師を対象にして、術後せん妄状態にある患者に対する臨床判断の要素と構造を明らかにした研究を行っています。中堅看護師が自己の看護実践を客観的に振り返り、実践力向上につなげられるような支援を見出していきたいと考えております。
2. 計量テキスト分析を用いて、実習前の看護学生のアセスメント内容の特徴を抽出し、可視化することで、看護実践力の育成に向けた成人看護学での技術教育への示唆を得る目的で研究を行っております。

Information（情報）

研究テーマ

看護学生の技術習得に関する研究

キーワード：左利き　教育　技術習得

領域・氏名

看護（成人看護学）　助手／　川西幸広

概要

看護師は道具を巧みに使用し、ケアを行います。看護学生の看護技術習得の困難を明らかにし、技術指導方法の質的向上に寄与します。

具体的な内容

教育機関における左利き看護学生への看護技術教授方法の実態調査を行います。また巧緻性の高い看護技術に関して、左利きの学生の困難を明らかにし、よりよい技術指導方法を考察します。

information

研究テーマ

がん看護におけるケアリングの研究

キーワード：がん看護のケアリング、ケアリング教育

領域・氏名

看護（老年看護学）　教授／　重久加代子

概要

　質の高いがん看護を提供するためには、ケアリング能力を高め、がん看護のケアリングを実践する必要があります。そのため、がん看護特有のケアリングや、ケアリングの効果について研究すると共に、がん看護のケアリング教育に取り組んでいます。

具体的な内容

・ケアリングの実践を促進するために、「ケアリング行動質問紙」を作成し、ケアリング行動の実践と看護実践力、看護への姿勢、自己充実的達成動機が関連していることを明らかにしました。
・がんセンターに入院しているがん患者を対象に、がん患者の生き方（能動的実践的態度）に影響するケアリングとその効果の大きさを明らかにしました。
・がん看護専門看護師やがんサバイバーを対象に、質的研究、量的研究により、がん看護に特有なケアリングを抽出し、がん看護特有のケアリングを基盤とするケアリングの構造を導きました。次に、これらの研究成果を用いて、「寺本の著書『看護のなかの死』で実践された終末期がん看護のケアリング」を明らかにしました。
・現在、緩和ケア病棟で終末期がん看護のケアリング教育を行い、その成果を明らかにする研究や、がん看護のケアリング実践自己評価尺度の開発を行っています。今後は、ケアリング能力を高めるための看護師の教育に取り組んでいきたいと考えています。

Information（情報）

　ケアリング、エンドオブライフケア、終末期看護、高齢者の看護に関するテーマでの出前講義が可能です。

研究テーマ

タッチケアによる苦痛緩和効果

キーワード：タッチケア、コンフォート、自然治癒力

領域・氏名

看護（老年看護学）　准教授／　緒方昭子

概要

痛みや不安など身体・心理的苦痛のある患者さんに対して、自然治癒力を高めるために心地よいケアとしてタッチケアを実施し、その効果を緩和・安心・希望というコンフォートの視点で検証し、今後苦痛緩和ケアとして提供できるように取り組んでいます。

具体的な内容

看護学生や健康な成人の方を対象にタッチケアを実施し「気持ちいい」「温かい」などの効果を得、その後胸腔鏡下手術後の患者さんへの実施により、「痛みが和らぐ」などの心理的効果を得ました。腹腔鏡手術後の患者さんに対して行った比較介入研究では、不快な気持ちの減少効果が得らえました。介入による身体面への効果は見られませんでしたが、安全性の効果として捉えることができました。これらの結果から、がんなど身体・心理面での苦痛の強い対象の方に対する、コンフォートケアとしての実施が可能と考えています。

information

高齢者施設や緩和ケア病棟でのコンフォートケアとして、また地域住民の方に対するタッチケアの実践により、心地よさと健康につながるケアとしての提供を考えています。

研究テーマ

高齢者の転倒予防支援に繋がるフットケア研究

キーワード：高齢者、フットケア、転倒予防支援

領域・氏名

看護（老年看護学）　助教／　郡ハルミ

概要

我が国は超高齢化が進み、健康寿命を延ばすことが喫緊の課題となっています。中でも要介護の原因となる転倒は、高齢者のQOLを著しく低下させます。そこで、転倒を予防する観点から「歩く足を整える」フットケアについて研究を進めています。

具体的な内容

高齢者の足の異常の多さや、意識の薄さ、転倒と足の異常の関連が明らかにされていますが、転倒予防支援としてのフットケア研究が進んでいない現状にあります。転倒予防支援としてのフットケア研究が進まない要因についての研究や、転倒予防に繋がるフットケア構成それぞれのエビデンス、簡便でセルフでも支援でもできるフットケアについて検討していきたいと考えています。

information

フットケア指導士として　正しい知識とケアについての研修活動や病院、施設との連携をとり、活動を広げながら地域に貢献していきたい所存です。興味のあられる方は是非ご連絡ください。

研究テーマ

感染看護における教育方法に関する研究

キーワード：感染看護、コンピテンシー、教育方法

領域・氏名

看護（看護統合）　准教授／　勝野絵梨奈

概要

感染看護の実践において求められる能力や資質を明らかにする事を通し、それらを育成するために効果的な教授・学習方法の開発や評価指標の作成へ取組むことで、学士課程における感染看護に関する看護実践能力の向上に寄与していきたいと考えています。

具体的な内容

医療関連感染の発生・拡大予防には、全ての医療従事者の確実な感染予防対策が不可欠となります。このことは、臨地実習で直接患者と関わる看護学生においても同様で、学生が感染症から自らを守り、自らが感染源となることを防ぐためにも、感染予防の基本原則をふまえた教育の徹底を図ることは、看護基礎教育においても重要であるといえます。そこで現在、感染看護に関する学生の看護実践能力の向上を目指すため、学士課程における感染看護に関するコンピテンシーを抽出することを目的とした研究（文部科学省科学研究費 若手研究：19K19537）に取組んでいます。

Information（情報）

これまで、医療施設の感染管理に貢献できるリーダー的人材の育成を目的とした体験型研修プログラムを開発・実践してきました。感染対策の基本となる標準予防策に関するテーマでの出前講義は可能です。

研究テーマ

新興感染症の危機管理に向けた地域の看護職人材育成と感染対策支援システムの構築

キーワード：新興感染症、人材育成、感染対策支援

領域・氏名

看護（看護統合）　講師／　武田千穂

概要

新興感染症対策の危機管理に向けた地域における看護職人材育成教育プログラムを含む、感染対策支援システムを構築することを目的とした研究に取組んでいます。

具体的な内容

新型コロナウイルス感染症は、国内において歴史上で初めてとなる「緊急事態宣言」の発令に至った感染症です。2020年以降これらの感染症対策に貢献している医療機関等やそれらに従事している医療従事者のプロセスや課題を、科学的に明らかしていくことは、今後も起こりうるあらたな新興感染症に対する保健・医療・福祉分野の危機管理や医療関連感染予防・対策の整備だけでなく、安全な医療への貢献が期待できると考えています。

そこで、新興感染症等に対する危機管理に向けた看護職の人材育成を目指したプログラム開発と、それらを含む感染対策支援システムの提言を目指し『新興感染症の危機管理に向けた地域の看護職人材育成と感染対策支援システムの構築』という研究に取り組んでいます（基盤研究C：21K10552）。

Information（情報）

医療施設において感染管理を推進できる看護職のリーダー育成および新興感染症対策支援を目的に、県内の医療施設において感染管理を担う看護職を対象とした研修会（感染管理スキルアップ研修会）を開催し、感染管理教育プログラムを開発・実践しています。

研究テーマ

育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プラグラムの開発

キーワード：月経前症候群、育児期、尺度開発、健康教育

領域・氏名

別科助産専攻　教授／　濱嵜真由美

概要

本研究の目的は、児童虐待の早期発見・早期予防に育児中の母親の月経前症候群の症状軽減を目的として開発した「育児期の月経前症候群尺度」が、月経前症候群の診断（第１スクリーニング）と母親のセルフケア（看護介入）になっているか検討し、月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムを開発する研究です。

具体的な内容

これまで、0歳から6歳児を育児中の母親を対象とし、育児中の月経前症候群（以下PMSと略す）のある母親が、月経前に子どもとパートナに及ぼす影響を測定する「月経周期に伴う育児感情尺度の開発と有効性の評価」を研究してきました（科研費：23593330,15K11678,19K11042）。

具体的には、0歳児～6歳児の母親を対象に、「育児期の月経前症候群尺度」活用しPMSの診断を実施しています。次に、PMSと診断した母親の精神的健康と身体的健康を目的とした健康教育（ストレス対策・貧血予防の食事指導・冷え対策・運動療法）を実施し看護介入を行います。最後にPMSのある母親のメンタルヘルスプログラムの開発をすることです。

Information（情報）

本研究は、新潟県立看護大学、国際医療福祉大学と九州看護福祉大学の共同研究です。また、月経前に、イライラする女性の「食事療法」、「運動療法」、「ストレスマネジメント」、「冷え対策」の健康教育・出前講義が可能です。

研究テーマ

高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究

キーワード：高齢初産婦、夫、サポート

領域・氏名

別科助産専攻　講師／　神薗洋子

概要

高齢初産婦の夫に焦点をあて、妻が妊娠中から産後まで夫が父親役割を獲得していく中で必要としているサポートを明確にすることを目的に研究しています。

具体的な内容

これまで、若年母親の育児の支援に焦点をあててきました。近年は、女性の高学歴化、社会進出により晩産化が進んでいます。高齢初産婦のサポートは、実母、夫であるがその実母も高齢化しておりサポートができない、夫も父親役割獲得中であり、どのようにサポートしていいかわからない状況です。夫の産後うつも発症すると報告されています。高齢初産婦をささえるにはまず、夫が必要としているサポートを明確にする必要があると考え研究に取り組んでいこうと考えております。

Information（情報）

小学4年生とその保護者、中学生に対して、「命について」、「思春期教室」、「看護職の仕事」について出前講座を行いました。
このテーマでの出前講座は可能です。

研究テーマ

妊産婦の不眠に対する認知行動療法（dCBT-I）の介入と効果

キーワード：　睡眠、妊産婦、不眠に対する認知行動療法

領域・氏名

別科助産専攻　助教／　蚊口理恵

概要

妊産婦さんを対象に、不眠に対する認知行動療法を実施し、その後の睡眠と不安、疲労等への改善効果を明らかにする研究に取り組んでいます。

具体的な内容

妊娠中から産後は、睡眠が十分にとれなくなったり、疲労や不安が出やすくなったりします。不眠に対する認知行動療法（以下dCBT-I）は睡眠改善の効果が認められていますが、妊娠中や産後の睡眠問題に対してdCBT-Iを実施した報告はほとんどありません。そこで、妊婦さんやお産後のお母さんに対して、 dCBT-Iを実施し、睡眠状態の改善や効果、不安や疲労に関する状況を明らかにするために本研究に取り組んでいます。本研究で得られた結果は、今後、妊産褥婦さんへの睡眠支援に役立てることができると考えています。

information

睡眠を含めたよりよい生活行動について、一緒に考えていけたらと思っています。

研究テーマ

熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセス

キーワード：熟練助産師

領域・氏名

別科助産専攻　助教／　福永美紀

概要

熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセスの特徴について検証します。

具体的な内容

　少子化や第１子出産時の平均年齢の上昇、合併症妊娠の増加により、安全で満足できる妊娠出産環境を求める社会のニーズが高まる中、産科医師不足により助産師の専門性の発揮と実践能力の向上は一層求められています。分娩期は人生のうちで最もダイナミックで目に見える変化を伴う時期であり、この時期の助産師の介入は、産婦や胎児のその後に大きな影響を及ぼします。
　熟練助産師がどのように産婦をとらえ、経時的に変化する状況を把握し、必要な助産ケアをタイミングよく介入しているのか、明らかにしています。

Information（情報）

研究テーマ

女性の健康支援に関する研究

キーワード：

領域・氏名

別科助産専攻　助手／　長友舞

概要

思春期女性への健康支援を目的とした健康支援プログラム開発を行っています。

具体的な内容

　これまで、県内の高校生を対象とした「月経ヘルスケア」、児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育」のプログラム作成に携わってきました。
　「月経ヘルスケア」では、県内の女子高校生への実態調査を行い、「月経ヘルスケアプログラム」の開発、またその効果を検証し、学校版月経ヘルスケアプログラムとその視聴覚教材の開発を行いました。また、その結果を県内の小学校・中学校・高校への配付することができました。
　現在は、進学により、親元を離れる中山間地域の中学生や保護者を対象にした思春期健康支援を行い、現状や課題、ニーズを明らかにすることを目的とし研究に取り組んでいます。

Information（情報）

宮崎県立看護大学 研究シーズ集　2024年度版　　研究者索引（五十音順）

	研究者氏名	研究テーマ	ページ
あ	荒武亜紀	先天性心疾患の子どもと家族への支援	38
	荒武舞	基礎看護教育における標準予防策の教育方法に関する研究	19
	壹岐さより	妊孕性に重点をおいた思春期健康支援	34
	池間功一	精神科病院における退院支援に活かす精神科退院前訪問に関する研究	24
	岩江荘介	研究倫理審査委員会の審査の質向上について（事務局スタッフへの教育など）	3
	上富史子	1. 3～5年目中堅看護師の臨床判断 2. 計量テキスト分析を用いた実習前の看護学生のアセスメントの特徴	44
	大館真晴	日本上代文学作品の文献学的研究	6
	大野理恵	更年期女性への健康支援に関する研究	35
	緒方昭子	タッチケアによる苦痛緩和効果	47
	小河一敏	看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築	1
	小野美奈子	保健師の実践力強化を目指した現任教育	29
か	甲斐鈴恵	健やかな親子を育む子育て支援に関する研究	37
	蚊口理恵	妊産婦の不眠に対する認知行動療法（dCBT-I）の介入と効果	53
	勝野絵梨奈	感染看護における教育方法に関する研究	49
	加藤沙弥佳	看護学生の職業コミットメントに関する研究	12
	神薗洋子	高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究	52
	川北直子	多読学習の効果、看護学生と異文化理解	4
	川越靖之	宮崎の産婦人科医療及び看護の発展を目指す	9
	川西幸広	看護学生の技術習得に関する研究	45
	河野朋美	知的障害者の受診支援／健康管理支援	32
	河野義貴	精神疾患に関する早期介入と再発予防	23
	川原瑞代	地域志向の看護力育成	25
	川村道子	精神科病院管理職者の為の人材育成力支援プログラム開発	21
	串間敦郎	高齢者の介護予防運動の開発と普及	2
	葛島慎吾	精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践に関する研究	22
	郡ハルミ	高齢者の転倒予防支援に繋がるフットケア研究	48
	五反田奈々	医療的ケアを必要とする子どもの養育者が子育ての喜びを感じるプロセスと要因	39

宮崎県立看護大学 研究シーズ集　2024年度版　　研究者索引（五十音順）

	研究者氏名	研究テーマ	ページ
さ	坂井謙次	実習指導の自己評価に関する研究	17
	坂下恵美子	終末期患者の看取りにかかわる看護師支援の研究	43
	重久加代子	がん看護におけるケアリングの研究	46
	菅野幸子	看護大学生の生化学(代謝学)教育に効果的な教育内容と教授方略	8
た	高橋秀治	地域における生活習慣予防活動に関する研究	33
	武田あゆみ	高齢者のQOLに関する研究	27
	武田千穂	新興感染症の危機管理に向けた地域の看護職人材育成と感染対策支援システムの構築	50
	田中美智子	健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究	10
	田丸喜代子	産後マイナートラブルについての研究	36
	冨永かほり	看護観形成を促進する教育の研究	20
な	中尾裕之	特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する分析とその可視化 ～自治体への支援のために～	13
	長坂 猛	睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力	7
	中角吉伸	要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究	26
	長友舞	女性の健康支援に関する研究	55
	中村千穂子	がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発	31
	野末明希	1．睡眠と日常生活の質改善プログラムの構築 2．遺伝性のがんをもつ人とその家族への看護支援	11
は	濱嵜真由美	育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プラグラムの開発	51
	原口優美	医療的ケアの必要な患者とその家族への支援	40
	原村幸代	高齢者の運動教室の継続要因	18
	久野暢子	HIV陽性者へのセクシュアルヘルス支援	41
	福永美紀	熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセス	54
	邊木園幸	高齢者施設における感染対策に関する研究	14
	ヘンスリージョール	国際コミュニケーションツールを備えるため	5

宮崎県立看護大学 研究シーズ集　2024年度版　　研究者索引（五十音順）

	研究者氏名	研究テーマ	ページ
ま	松本憲子	母親の育児力形成支援に関する研究	30
	宮ゆうこ	がん終末期高齢者の”その人らしさ”を支える訪問看護の特徴	28
	毛利聖子	看護理論の修得過程 ／ 人権・倫理教育の構築	15
や	矢野朋実	遺伝性のがんの患者と家族への看護	42
	山岡深雪	慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援	16

お問い合わせ

各教員の研究シーズの教員名は大学ホームページ
www.mpu.ac.jp 内の教員紹介（プロフィールページ）
へリンクしています。
そちらにメールアドレスがありますので、お気軽に
お問い合せください。